

設計製図基礎

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：設計製図は、概念的な計画行為を具体的な3次元空間の実体として構成していくプロセスである。ここでは、概念を図面や模型を通して表現するとともに、内容を検討・確認する作業も必要である。本演習では、そのための道具としての設計製図の基礎的方法を主に建築の設計を通して学ぶ。

授業では、小規模な住宅建築やギャラリーを対象として、図学、製図法、意匠の検討、プレゼンテーションについて順次、演習を行う。

- 到達目標**：① 基本的な図学の能力を基本に建築製図の意匠図までを描く能力を身に付ける。
② 模型や図面を用いた意匠の検討を行い、3次元の空間的思考ができる。
③ 構想的に正確に表現するためのプレゼンテーションができること。

■**担当教員**：

山田 良

■**授業計画・内容**：

I. 図学と製図法

- 第 1 回 3面図、建築物の立体と図面
- 第 2 回 平・立・断面図1（住宅）
- 第 3 回 平・立・断面図2（大規模な建築、傾斜地など）
- 第 4 回 小課題
- 第 5 回 詳細図

II. 住宅の設計を通して学ぶ

- 第 6 回 案の検討
- 第 7 回 スケッチと模型
- 第 8 回 コラージュ（場所の状況や利用者のイメージを表現する）
- 第 9 回 プレゼンテーション作成
- 第 10回 講評

III. ギャラリーの設計を通して学ぶ

- 第 11回 コンセプト・ダイアグラム
- 第 12回 コラージュ（場所の状況や利用者のイメージを表現する）
- 第 13回 プレゼンテーションの作成 1
- 第 14回 プレゼンテーションの作成 2
- 第 15回 講評

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。

■**参考文献**：講義内で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業時間内に行う課題と出席状況により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	◎	○	授業内のエスキスの積極性	50
課題・作品	◎	○	◎		50
出席				2/3以上の出席	欠格要件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I、II、III（特に空間デザイン）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：空間デザインコース志望予定の学生は履修を強くおすすめします。

空間デザインにおいては、原寸で考えることはもちろん、様々な縮尺を用いて、抽象化と具体化を繰り返して行う必要があります。この授業は、建築空間の事例を通して、縮尺の差異による設計や表現の要点に着いて学びます。それらを通して空間デザイン全般への応用可能な基礎的製図法を学んでほしいと思います。